

事項 1〇 國際常設經濟委員会一件

115〇 四月十四日 在本邦仏國大使ムリ
石井外務大臣宛

博命國へ軍事外交及經濟調整會議ムツシキ於ト核敵
補給防護ノ事由ムツシキ於ト核敵
並設置

ヲ決定タル付本代表者指名方申越ムツシキ件

Ambassade de la

République Française au

Japon

Tokyo, le 10 Avril 1916.
(4月11日接)

No. 21

Monsieur le Baron,

J'ai l'honneur de porter à la connaissance du Gouvernement Impérial qu'à la suite de la Conférence tenue à Paris les 27 et 28 Mars derniers, les Représentants des Puissances alliées ont adopté différentes mesures en vue d'affermir l'unité d'action aussi bien militaire qu'économique et diplomatique des Puissances représentées.

Notamment la Conférence a décidé que pour ren-

Veuillez agréer, Monsieur le Baron, les assurances de ma très haute considération.

(Signé) Regnault

Son Excellence

Baron Ishii

Ministre des Affaires Étrangères

etc., etc., etc.

~~~~~

116〇 四月十一日 在仏國松井大臣宛 (電報)

115〇 四月十九日 在仏國松井大臣宛 (電報)  
國際常設經濟委員会主席ノ本邦代表者任命方

閣ヘル件

第117号

貴電第117号ムツシキ閣ノ外務省局者ノ田村ニ語ル所ニ依レハ第

11決議國際常設委員会性質上諮詢機関ナルモ戰時中常設ノセシテ其決定ハ直ニ実行セラルルコトヲ期スルモノ

ナリ從テ同委員ハ各自重要問題ニ關シテハ固ヨリ本国政府ノ訓令ヲ仰クシト雖大概ノ事ニ關シテハ本国政府ノ訓令ヲ俟タズシテ決定ヲ為シ得ル權限ヲ有スムツシキノナルコト

ヲ希望スムツシキ右外務省局者ノ所見ハ本件ニ閣ヘル決議ノ趣旨ムツシキハ多少異ナリ居ル様存セラルルモ仏國政府ノ希望

ハ本委員会ノ決議ニ多大ノ効力ヲ有セシメントスルモノナルガ如クニ察セラル本官ノ見ル所ニ依レハ英國ハ或ハ多大ノ權限ヲ有スルモノヲ派出スベキモ其他ノ委員リアリテハ

本国ノ訓令ヲ俟タズシテ決斷專行シ得ベキヤ疑ナキ能ハズ本邦ニ閣ヘル限リ歐洲列國ノ獨奧兩國ニ對スル關係トハ自

諸國ニ於テハ委員ヲ指名シタルヤ其ノ振合等承知シタク又本邦委員ノ指名ニ關シ貴官ノ御意見モ併セテ電報アリタシ

~~~~~

forcer, coordonner et unifier l'action économique pour empêcher les ravitaillements ennemis, il serait constitué à Paris un Comité permanent où tous les Alliés seraient représentés. Le Comité est indépendant de la Conférence économique qui doit se tenir incessamment à Paris.

Je suis chargé par mon Gouvernement, en notifiant cette décision au Gouvernement Impérial, de Le prier de bien vouloir désigner son ou ses Représentants à ce Comité permanent.

J'ajouterais pour l'information de Votre Excellence que le Gouvernement de la République a désigné de son côté pour faire partie de ce Comité:

1°/ M. Denys Cochin, Ministre d'Etat

2°/ M. Gout, Ministre Plénipotentiaire

3°/ le Contre-Amiral Amet.

Le Gouvernement Français attacherait un prix particulier en vue du prompt fonctionnement de cette organisation nouvelle, à recevoir dans le plus bref délai possible la réponse du Gouvernement Impérial.

セザルベキモ既ニ連合国ニ於テ斯ク決議シタル以上本邦ヨリ委員ヲ同委員会ニ出席セシムルコトハ連合国側ニ対スル本邦政府提挈ノ実ヲ明示スルト同時ニ各国内部ノ事情ニ関スル詳細ノ情報ヲ得ル上ニ於テ頗ル重要且ツ有利ナルヘント存セラル右委員会ニ出席スベキ委員ノ数ニ関スル仏國政府ノ希望ハ必ズ三名ナルヲ要セズ一名ニテモ可ナル次第ニテ現ニ白耳義ヨリハ一名ノ工業家ヲ選定セル由ナリ尤モ仏國委員ハ國務大臣 Denys Cochin 海軍少將 Amet 外務省局次長特命全權公使 Gout ノ三氏ニ内定シタル趣ナリ右ノ外末ダ何レノ國モ委員ノ選定ヲ見ズト云フ

右様ノ次第ニ付本邦ニ於テ他ニ適當ノ候補者アレバ兎モ角差当リ田付參事官ヲ委員ニ任命セラレテハ如何ト存ゼラル

(露都経由四月二十一日後晩時二十三分)

二八三 五月一日 開議決定

対敵補給防遏ノ經濟措置強化ノ為ノ國際常設

委員会ニ列席スヘキ日本委員任命ニ關スル件

本年三月二十七日及二十八日仏國巴里府ニ開カレタル軍事外交經濟調整會議ハ二十八日ノ本會議ニ於テ物資ノ敵国ニ

第四七号

貴電第三七号ニ閲シ

國際常設委員会ニ帝國委員ヲ出席セシムルコトハ貴見ノ通各國內部ノ事情ニ關スル詳細ノ情報ヲ得ル為重要且有利ト認ムルニ付帝國委員トシテ田付參事官ヲ該委員会ニ参列セシム尤モ議決ヲ要スル場合ニハ其度訓令ヲ俟テ之ニ加ハルヘキモノトス以上同參事官へ伝ヘラレタシ

二八五 六月二十七日 在仏國松井大使ヨリ

國際常設經濟委員会第一回會議ニ關シ報告並

戰時禁制品對敵補給防遏及對敵通商制限ニ關

スル我國ノ情報送付方裏請ノ件

第一一一号 (七月二日接受)

往電第二七号並ニ貴電第四七号國際常設經濟委員会 Comité permanent international d'action économique ニ閲

シ田付委員ノ報告及稟請左ノ如シ

同委員ニ於テハ六月二十日第一回會議開会後毎週一回通常会ヲ開キ主トシテ(一)戰時禁制品(二)對敵糧食供給制限(三)對敵通商制限ニ關シ各國法制及其實際ノ措置振等ニ閲シ情報ノ

一〇 國際常設經濟委員会一件 二八五 二八六

入ルヲ防遏セムカ為採ルヘキ經濟上ノ手段ヲ統一増進スルノ目的ヲ以テ常設委員会ヲ巴里ニ設置スルコトヲ議決セリ

此委員会ハ連合各國ノ代表者ヨリ成リ諮詢機関タル性質ヲ有シ諸國ノ国内委員会ヨリ其原則上ノ決議ニ付通報ヲ受ケ之ヲ連合諸國政府ニ轉達スルノ任ヲ有シ從テ此委員会ハ國內委員会ニ代ルヘキモノニアラズシテ直接執行ノ權力ハ國內委員会之ヲ保持スルモノトス

在本邦仏國大使ハ本國政府ノ訓令ニ依リ四月十日本大臣ニ書翰ヲ致シ常設委員会ニ列席スヘキ帝國委員ノ任命アリタキ旨ヲ申入ルルト同時ニ仏國政府ニ於テハ國務大臣 Denys Cochin 全權公使 Gout 海軍少將 Amet ノ三氏ヲ其委員ニ任命セルコトヲ通知セルガ四月二十七日再ヒ書翰ヲ送リ帝國委員ノ任命ヲ督促セリ

仍テ前記常設委員会ニ帝國委員トシテ在仏田付大使館參事官ヲ參列セシム

二八四 五月一日 在仏國松井大使ヨリ

國際常設委員会參列ノ本邦委員トシテ田付參

事官任命ニ付通報ノ件

蒐集及其情報ニ基ク審議ヲ目的トシ並ニ其審議ノ結果又ハ各國委員ヨリ前記通常会ニ提議セラルヘキ提案ニシテ特ニ同委員会ノ決議ヲ要スルモノナル場合ニハ本會議ヲ開キテ之ヲ議定スルコトナリ居レリ就テハ同委員会カ前記三項ニ關シ本邦ノ情報ヲ得ソコトヲ切望スルハ(本件ニ關シテハ目下滯巴中ノ鶴見矢部両氏ヨリ説明ヲ得ル積リ)勿論我國經濟調查會ノ調査事項ニ關スル討議並ニ審査報告及決議等ニ付テモ頗ル其ノ注意ヲ惹キ之ニ關スル議事錄報告書必要上右等ノ書類ハ事情ノ許ス限り隨時御送付アリタシ

(露都経由六月十九日 第五五一号)

二八六 七月四日 在仏國松井大使ヨリ

第二回常設委員会ニ於テ連合國經濟會議決議

中ノ對敵通商禁止ノ項ニ關スル勸告ヲ決議シ

タルニ付諸訓ノ件

第一一八号 (七月五日接受)

田付委員ヨリ

六月三十日第二回通常会ニ於テ英國委員ノ発議ニ基キ連合

國經済會議決議中敵國通商禁止ニ関スル(a)項ハ最モ緊急事項トシテ取扱ハレ度事右事項執行ノ為可成速力ニ立法手続ヲ取ラレ度事並ニ其以前不取敢臨機ノ措置トシテ statuary list Britannique ラ採用シ之ヲ連合國ノ商人ニ通知シテ右表中記載ノ者ト取引スル事ヲ避ケシメ度事等ヲ各連合國ニ勧告スヘシトノ決議ヲ通過セリ本員ハ予テノ御訓令ニ基キ本邦政府ノ訓令ヲ仰ガズシテハ此決議ニ加ハル事ヲ得ザル旨ヲ述ベタルニ前記決議ノ起草者タル仏國委員ハ右ハ單ニ勧告ニ止マリ各國政府ニ対シ何等拘束力ヲ有スルモノニアラザル旨ヲ述ベタリ伊國委員亦本員ト同態度ニ出デタリ右決議ニ關スル帝国政府ノ御訓令ヲ仰ク次回會議ハ七月十三日頃ナラン

二八七 七月十一日 在仏國松井大使宛
石井外務大臣ヨリ
機密送第七号

國際常設經濟委員会ニ關スル件

國際常設經濟委員会ニ關シ貴電第一一一号ヲ以テ御申越ノ趣了承対敵通商ニ關スル帝国ノ法規ニ關シテハ曩ニ在本邦仏國大使ヨリ別紙甲号写ノ通申越候ニ付別紙乙号写ノ通及

乙号

田付委員へ

第二回通常会決議ニ關シ帝國政府ニ於テハ在本邦敵商並敵商ト密接ノ關係アル内外人ヲ英國ノ「スタチュートリー、リスト」ヘ編入方ニ付英國政府ノ提議ヲ容レタルノミナラズ已ニ一般當業者ニ対シ該「リスト」ヲ告知シ之ニ掲記ノ者ト取引スル者ハ其對英通商上必要ナル各種ノ利便ヲ今後英國側ヨリ享受スルコトヲ得ザルニ至ルベキ旨ヲ警告シ且其他対敵通商取締ニ付内訓等ノ方法ニ依リ出来得ル限り之ヲ実行中ナル所連合國經濟會議決議対敵通商禁止ニ關スル(a)項ノ立法ハ種々困難ナル事情アリテ實行覚束ナキ状態ナルニ付貴官ハ其含ヲ以テ常設委員会ニ対シ適當ノ説明ヲ与ヘラレタル上決議ニ加ハラレ差支ナシ

註 右田付委員宛回訓案ハ七月十三日内閣ノ承認ヲ得タルニ依リ同日石井外務大臣發松井大使宛電報第八二号ヲ以テ發電セラレタリ

二八九 七月十三日 大隈内閣總理大臣ヨリ
石井外務大臣宛

對敵通商禁止ニ關スル常設委員会ノ決議二対

一〇 國際常設經濟委員会一件 二八九 二九〇

回答置候条右様御承知相成度將又帝國經濟調査會ノ調査事項并ニ之ニ關スル報告決議等ニ關シテハ該會ハ主トシテ戰後ノ内國經濟政策ヲ攻究スルモノニシテ國際常設經濟委員會ト其ノ性質ヲ異ニスルノミナラズ該會ノ決議中ニハ外國ニ知レ渡ルコトヲ欲セザル事項モ有之候ニ付右書類交換的送附ノ儀ハ差控度尙今後トテモ國際常設經濟委員會ヲシテ此種ノ希望ヲ抱懷セシメザル様可然注意方田付委員ニ御伝達相成度此段申進候也

註 別紙甲号及乙号省略

二八八 七月十二日 石井外務大臣ヨリ
大隈内閣總理大臣宛

連合國軍事外交經濟調整會議ノ決議ニ基ク巴

里常設委員会決議ニ關シ闇議請求ノ件
通機密送第七二号

本件ニ關シ別紙甲号写ノ通在仏松井大使ヨリ來電ノ次第有之候處田付委員ヨリノ稟請ニ対シテハ別紙乙号案文ノ通回訓方可然ト被存候ニ付此段及請議候也

註 別紙甲号写ハ前掲松井大使來電一一八号写ナリ省略ス(別紙)

スル我態度ノ件

内閣外甲第二六号

(七月十三日接受)

大正五年七月十三日

内閣總理大臣伯爵 大隈重信(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

指 令

大正五年七月十二日通機密送第七二号

連合國軍事外交經濟調整會議巴里常設委員会決議ニ關スル件請議ノ通

二九〇 七月二十一日 在仏國松井大使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

對敵通商禁止ニ關スル常設委員会ノ決議二対
シ第三回會議ニ於テ我態度表明並請訓ノ件

第一三六号

田付委員ヨリ

七月二十一日第三回會議本委員ハ貴電第八二号ノ趣ヲ朗読シ右ニ対シ會議ニ於テ Prendre acte スルナラバ本件決議ニ加ハルベシト述ヘタルニ帝國政府ノ既ニ執ラレタル措置ニ対シ會議ハ之ヲ多トスル次第ナルモ會議ノ希望トシテハ

今一層嚴重ナル措置即チ行政上ノ制裁ヲ附シタル措置ヲ執
ラレンコトヲ切望スル旨議長ヨリ更ニ提議アリタリ右ニ対
スル帝國政府ノ御意向次回會議八月四日迄ニ御回示ヲ請フ
將又本會議ノ決議ハ概不单ニ各國政府ニ recommander バ
ル性質ノモノナレバ仮令本委員ガ決議ニ加ハリ居ルモ決シ
テ是レニ由リ帝國政府ヲ拘束スルモノニアラズト信セラル
故ニ右様ノ場合ニハ一々御訓令ヲ仰ガズトモ可ナル様致シ

タシ

二九一 七月二十九日

(石井外務大臣ヨリ
在仏國松井大使宛(電報))

對敵通商禁止問題ニ關シ回訓ノ件

第八九号

貴電第一三六号ニ關シ田付委員へ左ノ通り
行政上ノ制裁トシテハ行政命令ニ依ル处罚ノ外ニ適當ナル
方法アルモノト思考シ難キ处罚命令ニテ定メ得ル处罚則ハ輕微
ニシテ到底所期ノ目的ヲ達シ難ク結局立法ノ手続ヲ要スベ
シ右立法ニ關シテハ政府ニ於テ相當ノ考量ヲ加ヘツツアル
モ往電第八二号ノ通ナルヲ以テ對内關係上急速実行ノ運ニ
至リ難キニ付其含ニテ適當ノ説明ヲナシオカレタシ又将来

第四回常設委員会ニ於ケル公債類元利ノ對敵
仕払防止ニ關スル決議ニ付請訓ノ件

第一四四号

(八月九日接受)

田付委員ヨリ

第四回會議ニ於テ直接又ハ間接ニ敵人ニ對シ公債類ノ元利
支払ヲ防止スル為會議ノ左ノ二項ニ關シ連合國ニ勸告スト
ノ決議文ヲ通過セリ

一、本決議文附屬宣言書ノ提出ナキニ於テハ絶対ニ前記

ノ支払ヲ為ザルコト

二、前項採用ノ次第ヲ中立國銀行家又ハ取扱人ニ周曉セ

シムル為最モ広ク之ヲ広告スヘキコト

將又宣言書ノ大要ハ本件利札ハ直接ニモ間接ニモ敵人ノ利益ノ為ニ其支払ヲ請求スルモノニアラザルコト竝ニ其利札及利札ヲ切離シタル債券類ハ開設当初及其後ニ於テ敵人所有ニアラザルコトヲ宣言シ且ツ其証憑書類ノ提示ヲ應諾スヘキコトヲ声明スルニアリ而シテ敵人トハ同盟國ト對戰中ノ國民ハ勿論敵國內ニ居住シ又ハ敵國内ニ於ケル取引ヲナスモノハ總テ之ヲ含ムモノトス國債類ノ元金支払ニ關シテモ同一書式ニ依ル但シ利札ニ代フルニ債券ノ文字ヲ用ユ

本會議ニ於テ貴官ハ連合國經濟會議ニ於ケル阪谷男同様各問題ニ付適當ナル留保ヲ附セラレ決議ニ加入差支ナシ

註 前掲二八八文書別紙末尾ノ註参照

二九二 八月七日

(在仏國松井大使ヨリ
石井外務大臣宛(電報))第四回常設委員会ニ於テ對敵輸出禁止ノ品目
ヲ討議シタルニ付請訓ノ件

第一四三号

(八月九日接受)

田付委員ヨリ

八月四日第四回通常會議ニ於テ敵ヲ苦シムルタメ輸出禁止ニ附スヘキ品目約六十種ニ關シ討議セルモ遂ニ決議ニ至ラズ次回會議ニ於テ尚討議ヲ統行スヘシ右品目中特ニ本邦ヨリノ輸出ニ關係アルハ生糸綢織物茶及樟腦等多數アル所右ニ對シテハ同會議ニ於テ一應抗議ヲナシ置キタリ尤モ右輸出禁止ニ對シ相当ノ除外例ヲ設クルコト當然ナリ本件ニ關シ次回會議ニ主張スヘキ御意見八月十六日迄ニ御回訓ヲ請シ追

公第一一八八号

(九月十五日接受)

二九四 八月七日

(在仏國松井大使ヨリ
石井外務大臣宛(電報))

國際常設經濟委員会決議文送付ノ件

大正五年八月七日

在仏

特命全權大使 松井慶四郎(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

田付委員ヨリ提出ニ係ル本年七月四日発往電第一一八号國際常設經濟委員会ニ於ケル對敵通商禁止ニ關スル決議文及其反訛文別紙ノ通り及御送附候間御查閱相成候様致度此段申進候敬具

追テ本件ニ關シ今日マデノ処露國ハ未ダ何等ノ回答ヲ為ザルモ伊國ハ已ニ大體英國ノ Liste noire ノ主義ニ同意シ葡國ハ左ノ制限ヲ附シテ右ノ主義ヲ採用シ白國ハ葡國ノ例ニ倣ヒタル趣田付委員ヨリノ申添ニ付キ此段添テ申進候也

一〇 國際常設經濟委員会一件 二九五

一、予メ葡國政府ニ協議スルコトナクシテ Liste no.

ire ニ記入セザルコト

二、葡國政府ノ請求アル場合ニハ右 Liste モリ葡國商

人ヲ除去スベキコト但シ此場合葡國政府ハ其責任ヲ負

フコト

三、強制管理中ノ獨乙商館ハ Liste noire リ載セザル

コト

(別紙)

決議文訳文

本委員会ハ左ノ件ヲ連合国政府ニ勧告セントス

一、敵国人ニ対シ及敵国人ト協同シ又ハ敵国人ノ勢力ノ下

ニアルモノニ対シ其中立国人ナルト否トニ別ナク場所

ノ如何ヲ問ハズ總テ通商ヲ禁止セントスル經濟會議ノ

決議 a 項ハ最モ緊急事項トシテ取扱フコト及本事項ニ

関シテハ可成速カニ立法手続ヲ執ルヘキコト

二、不取敢臨機便宜ノ措置トシテ Statutory list britann-

que ヲ採用シ之ヲ連合国商人ニ通知スルト同時ニ右人

名簿ニ記載ノモノト一切取引ヲ避クヘキコトヲ勧告ス

ルコト

註 決議文ノ原文省略

三、前記ノ形式採用ノ上ハ之ヲ中立國ノ銀行業者又ハ其取

扱者ニ対シ周知セシムル為メ最モ広々廣告スルコト

宣言書式

(+)下名ノモノハ本書附屬書ニ記載ノ利札ノ支払ガ間接ニモ

又ハ直接ニモ連合國ノ敵人ノ利益ノ為メニ請求セラルル

モノニアラザルコト及ビ

(+)右ノ利札及ヒ之ヲ切離シタル本債券ハ開戦當時ニ於テモ

又其后ニ於テモ連合國ノ敵人ノ所有ニアラザリシコトヲ

宣言シ何時ニテモ之ヲ立証スヘシ

本宣言書中敵人ト云フハ連合國ト交戦中ノ諸國臣民及

其国内ニ居住シ又ハ其國ニ於ケル取引ニ從事スルモノ

ヲ總テ包含ス (債還債券ニ關スル宣言書ハ前記ノモノ

ト同一ナリ但シ利札ノ文字ニ代フルニ債還債券ノ文字

ヲ以テス故ニ之ヲ略ス)

一一九六 八月十九日 石井外務大臣ヨリ

在仏國松井大使宛 (電報)

一一九七 八月二十三日 石井外務大臣宛 (電報)

三六八

二九五 八月七日 在仏國松井大使

ヨリ

第四回國際常設經濟委員会ニ於ケル對敵諸債

券類元利仕払防止ニ關スル決議文送付ノ件

公第一八九号

大正五年八月七日

在仏國

特命全權大使 松井慶四郎 (印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

國際常設委員会決議文送附ノ件

田付委員ノ提出ニ係ル本日発往電第一四四号國際常設經濟

委員会ニ於ケル對敵諸債券類元利仕払防止ニ關スル決議文

及其反訳文別紙ノ通及御送附候間御查閱相成候様致度此段

申進候敬具

註 決議文テキスト省略

(別紙)

第四回國際常設經濟委員会ニ於ケル決議の和訳文

債還サルヘキ諸債券又ハ利札ノ仕払ガ直接又ハ間接ニ敵人

ニ為サルベキコトヲ防止スル為メ本委員会ニ左ノ件ヲ連合

田付委員

對敵輸出禁止品ニ關シ回訓ノ件

第一〇四号

田付委員ヘ

貴電第一四三号ニ關シ主義トシテハ敵手ニ渡リ又ハ渡ル廣

アル場合ニ限り輸出禁止ヲ為スハ異議ナキモ中立國トノ正

當ナル貿易ニシテ敵ヲ苦シムル手段ト何等關係ナキ場合ヲ

モ包含セシムルハ全然反対ナリ尤モ各品目ニ就テハ一々其

品目ニ当ラザレバ意見ヲ述べ難キニ付六十種ノ品目ヲ凡テ

電報セヨ尚輸出禁止品ノ場合ニ於テモ連合國相互間ニ於テ

ハ最モ寛大ナル手心ヲ以テ輸出特許ヲ与フルコトシタギ

ニ付貴官ハ其含ヲ以テ折衝アリタシ

第一五九号

田付委員ヨリ

貴電第一〇四号ニ關シ往電第一四三号品目表ハ既ニ朽木中

佐ニ托シ發送済ナリ九月上旬御接手ノコトト思ハル八月十

一〇 國際常設經濟委員会一件 二九八 二九九

三七〇

八日第五回會議ニ於テ右品目表ニ多少ノ修正ヲ加ヘ之レヲ
議決シタリ右議決品目表ハ作成出来次第郵送スヘシ議決ノ

際本委員ハ帝國政府ノタメ相當ノ留保ヲナシ置ケリ本件各

國ノ回答モ多少遲延スヘキ様思ハルニ付郵送品目表御接

手ノ上御研究ノ結果電報ヲ以テ御回示サルモ未ダ遲シト

セザルヤニ存ゼラル右ニテモ尚品目電報ノ必要アルベキヤ

~~~~~  
二九八 八月二十四日 在仏國松井大臣ヨリ

(電報)

公債類元利ノ対敵仕払防止ニ関スル決議ニ付

回訓ノ件

第一一〇号

田付委員ヘ

貴電第一四四号宣言書提出ニ關シ内國払ノ場合ハ支払ノ都度各人ヲシテ之ヲ実行セシムルコト不可能ニシテ外國払ノ場合ハ往電第九三号ノ措置ヲ為セル以上其必要ナク又仮令實行スルモ実効少ナカルヘシト察セラル尤モ外國払ノ分ニ付連合各國ニテ皆其手続ヲナスニ於テハ帝國政府モ該手続及形式研究ノ上何分ノ決定ヲナスヘキ見込ナリ

二九九 九月九日 在仏國松井大臣宛

(電報)

常設委員会第六回通常會ノ模様報告ノ件

第一六七号

田付ヨリ

九月八日第六回通常會、(一)羅馬尼連合國側ニ加ハリタル結果同國代表者ヲ本委員会ニ加ハラシメントスル議出デ右ハ連合各國政府ノ同意ヲ得タル上之ヲ羅馬尼ニ通知スヘシト

ノコトニ決セリ帝國政府ニ於テハ無論御異存ナキコトト信スルニ付次回會議(九月十五日)ニ於テ帝國政府ノ名ニ於テ承諾ヲ与フル積ナリ(二)本委員会ニ於テ参考用トシテ各國共通ノBlack List調製ノ企アリ日本ノ既定「ブラック、リスト」提出方請求アリタルモ帝國政府自身ノ「ブラックリスト」ナキ旨ヲ答ヘ置キタリ万一日本人ニシテ「ブラックリスト」ヨリ除去ノ必要ナルモノアラバ其ノ姓名及理由電報セラレタシ(三)日本ニ於ケル土耳其古人ノ取扱ニ關スル情報ノ請求アリタルニ対シ日本ニテハ約二十人位ノ土耳其人アルノミニシテ何等ノ特別取扱ノ規程ヲ設ケス右土耳其人ニシテ帝國政府及連合國ノ利益ニ反シ又ハ之ニ有害ナル

行為ヲ為サザル限り帝國領土内ニ於テ通行宗教並營業ノ自由ヲ有スヘント答ヘ置ケリ四貴電第一一〇号後段ニ關シ連

合各國トモ同様ノ手段ヲ執ルニ至ルベシ帝國政府ニ於テモ予メ御考量ヲ加ヘ置カレタシ尚本件宣言書中 l'ouverture des hostilités トアルハ各國トモ一九一四年八月一日ヲ以テ其ノ時期トスルコトニ一致セリ(五)葡國委員ノ語ル所ニ依

レハ仏國ハ職工不足ノ為軍需品製造所一十四ヶ所ヲ閉鎖シ居レリ葡國ヨリ一万ノ職工ヲ仏國ニ送ル筈ナリト又仏國委員ノ語ル所ニ依レハ独逸ニ對シ物資補給ニ關スル封鎖ヲ嚴重ニ実行スレハ一ヶ月後ニハ独逸ハ全ク珈琲ヲ飲用スルコト能ハザルニ至ルヘキコト確実ナリト言ヘリ

三一〇〇 九月十四日 在仏國松井大臣宛

石井外務大臣宛ヨリ

國際常設經濟委員会議決改定輸出禁止品目録  
及本件決議文送附ノ件

(十月廿五日接受)

國際常設經濟委員会議決改定輸出禁止品目録

及本件決議文送附ノ件

公第二一八号

大正五年九月十四日

在仏

特命全權大使 松井慶四郎(印)

一〇 國際常設經濟委員会一件 三〇〇

註 別紙甲乙及内各号省略

(別紙乙号) 調製シタルモノニシテ之ニ基キ敵国へ再輸出セラレサルヘキ保証ナキ限り各連合国ラシテ其境土ヨリ該表中ノ物品ヲ輸出セシメザル様關係各国ノ注意ヲ喚起スルヲ要ス

ト即チ是ナリ而シテ右ノ輸出禁止品目録ハ第五回通常会二於テ原案ニ改訂ヲ加ヘ之ヲ通過スルト同時ニ左ノ如キ決議文ヲ可決セリ

## 決議文(別紙丙号)

- 一、本文附屬品目表ハ軍事上ノ利益ノ為メニ之カ輸出禁止ヲ必要トル商品ノ種類ヲ示スモノニシテ本品目表ニ対シテ連合国政府ノ留意ヲ求メントス
  - 二、各連合国政府ハ本品目表中ノ商品ハ悉ク其國輸出禁止品目表中ニ含マレ居ルカヲ確ムコトヲ要ス
  - 三、右取調ノ結果其國輸出禁止品目表中ニ欠漏アルコトヲ発見シタルトキハ之カ追加ヲ為ス可シ
  - 四、敵國ニ再輸出ノ恐ナキ場合ニ本件禁止ニ対シ除外例ヲ設クルコトハ各國政府ノ自由タルコト勿論トス
- 右決議文ニ対スル帝国政府ノ決定ハ本件品目ニ対スル決定ト共ニ電報ヲ以テ御回訓相成様致度シ

## 第一七三号

田付ヨリ

九月十五日第七回通常会議(一)往電第一六七号(一九一四年八月一日)期日ノ項可決(往電第一三九号決議文ノ追加トシテ)(二)敵国隣接ノ中立國ニ対シ連合国ガ是迄許容シ來リタル輸入珈琲ノ量ヲ現ニ其ノ中立國ノ需要ヲ充タスニ足ル丈ニ節減センコトヲ連合国ニ勧告ストノ決議文可決

右二項ニ対シ帝国政府ニ於テ御異議アラハ至急御電訓ヲ請フ

九月二二十八日 石井外務大臣宛(ヨリ)  
在仏國松井大使宛(電報)

敵國人ニ対スル公債類元利金仕払方ニ関シ回訓ノ件

## 第一三二号

田付ヨリ

田付委員ヘ  
貴電第一七五号ニ關シ  
連合各國ニ於テ決議ニ遵ヒ同様ノ手段ヲ取ル場合ニハ帝國政府ニ於テモ外國ニ於テスル仕払竝ニ内國ニ於ケル外國人払ニ就テハ成ルヘク之ト歩調ヲニスヘキ見込ナリ尚ホ干九百十四年八月一日ヲ期日トスルコトニ付テハ異議ナシ

三〇三 十月三日 在仏國松井大使宛(ヨリ)  
石井外務大臣宛(電報)

## 黒表及資金ノ対敵流入防止ニ關スル第八回会議決議ニ付報告及請訓ノ件

第一八三号  
田付委員ヨリ

九月二十九日第八回会議、本会ヨリ羅馬尼ノ委員モ参列スルコトナレリ本会ニ於テ左ノ二決議通過セリ

(一)「ブラック、リスト」ノ件ニテ往電第一六八号第二項ニ関連シ本委員會ノ書記部ニ於テ各國ノ「ブラック、リスト」ヲ總括シ之ニ基キ「アルファベット」順ノ目録ヲ作ルコト

各國ノ「リスト」修正改定ノ場合ニハ其都度各國ハ速ニ其理由ヲ附シテ之ヲ書記部ニ通知スルコト書記部ハ右修正改



一〇 国際常設經濟委員会一件 三〇六 三〇七 三〇八

三七六

為採ルヘキ方法ニ付テハ講究ヲ要スルモ決議ニ対シ主義トシテ異存ナシ

三〇六 十月十六日 寺内兼任外務大臣宛

寺内兼任外務大臣ヨリ

国際常設經濟委員会田付委員ノ後任トシテ大

鳥參事官ヲ指名方請議ノ件

人機密送第一二〇号

大使館參事官田付七大儀予テ巴里ニ於ケル國際常設經濟委員会ニ帝國委員トシテ參列致來候處今般同官帰朝被命其後

任トシテ大使館參事官男爵大鳥富士太郎仏國在勤被仰付候ニ付テハ大鳥參事官着任後ハ同官ヲシテ帝國委員トシテ該委員会へ参列セシメ度此段及請議候也

大正五年十月十六日

外務大臣伯爵 寺内正毅（印）

内閣總理大臣伯爵 寺内正毅殿

三〇七 十月二十日 在仏國松井大使宛（電報）

田付委員ノ後任トシテ大鳥參事官ヲ任命ノ件

第一四〇号

盟国政府ニ勧告ス

第一ノ決議ノ裏面ニハ帝國政府モ英仏露伊ト同様ナル程度ニ戰時禁制品ヲ拡大セラレムコトヲ希望スルノ意ヲ寓シタルモノニシテ表面之レラ婉曲ニ言ヒ現ンタルニ過ぎズ次回ハ十一月十日ニ開カルベケレバ右前日迄ニ同決議ニ關スル帝國政府ノ御意向御回示ヲ請フ

尚十月二十七日ノ倫敦タイムスニ帝國政府ハ對敵通商法及黒表ヲ制定セラルルヤニ伝ヘタルガ右果シテ事實ナルヤ

第一四五〇号

三〇九 十一月七日 寺内兼任外務大臣ヨリ  
在仏國松井大使宛（電報）

日本ノ對敵通商法制定ヲ報ゼルタイムス記事

ニ關スル件

第一四七号

大鳥委員ヘ左ノ通

貴電第一九一号末段タイムス新聞ノ記事ハ帝國政府ニ於テ

巴里經濟會議決議中先ツ戰時ニ關スル措置ヲ承認セムトス

ル議アルコトヲ伝聞セルノ結果ナラムト思考スルモ右ハ目下閣議手続中ニ屬シ本件ニ關シ既ニ具体的ニ法案作成ノ運

三一一 十一月十八日 在仏國松井大使ヨリ

寺内兼任外務大臣宛（電報）

貴電第一八六号ニ関シ大鳥參事官着任後ハ同官ヲ帝國委員トシテ參列セシムルニ付同官着任ノ上ハ右貴官ヨリ転達アリタシ尚委員会へ通告方等可然取計ハレタシ

三〇八 十一月三日 在仏國松井大使ヨリ

寺内兼任外務大臣宛（電報）

戰時禁制品目表ニ関スル第九回會議決議ニ付

報告及請訓ノ件

第一九一号

大鳥ヨリ

十月二十七日第九回會議ニ出席本會議ニ於テ左ノ二決議通過セリ

(一) 本委員会ハ各國ノ戰時禁制品目表ヲ統一セムトスル目的ヲ以テ各國カ同品目表ニ改正増補ヲナシタルトキハ之レ

ヲ同会ニ通報シ以テ同時ニ各同盟國ヲシテ各自ノ品目表ヲ補充スルノ便ニ供セムトス

(二) 「アニリック、アルコホル」ハ敵國ニ於テ多量ニ火薬及飛行機用塗料製造ニ使用スル所右ハ同盟國ノ禁制品目表中ニ含マレザルニ付爆發製造ニ供スルモノトシ諸種ノ「アルコホル」ヲ絶對的戰時禁制品ト宣言スルコトヲ各同

第十回常設委員会ニ於ケル決議事項ニ関シ報  
告及請訓ノ件

第一〇三号

(十一月十九日接受)

大鳥ヨリ

十一月十日第十回會議ニ於テ左ノ三決議通過セリ

一、対敵通商禁止及敵國臣民ト結ヒタル契約ノ効力ニ関ス  
ル各連合国ノ法制ヲ研究シタル結果委員会ハ此問題ニ關  
シ多数ノ連合国ハ之ニ適応スル必要ナル措置ヲ行政上ノ  
主義乃至法制ニ對シ執リタリト思考ス就テハ協同ノ実行  
ヲ勧告スルノ必要ヲ認メズト雖一般ノ利益ニ顧ミ将来各  
國ハ其ノ法令ヲ制定スルニ當リ連合国ノ法制ヲ參酌シ以  
テ成ルヘク予テ望メル統一及協調ノ域ニ達セムコトノ希  
望ヲ開陳ス

二、輸出禁止若クハ戰時禁制品目表ニ掲載セル商品ノ搬出  
ニ指図式若ハ持参人式船荷証券ノ使用ヲ禁スルコト其ノ  
他ノ商品搬出ニ對シテハ荷出入ハ出来得ル限リ實際ノ荷  
受人ヲ指示シ其ノ知レル限り乃至探知シタル所ニ拠レハ  
該商品ハ敵國若ハ疑ハシキ中立國臣民ニ寛テタルモノニ  
アラザルコトヲ宣明スルコト尚右宣明書ノ副書ハ檢閱ニ

## シタルニ付照会ノ件

政機密送第一二〇号

大正五年十一月廿四日

本件ニ關連シ本月七日附政機密送第一一六号ヲ以テ寺内前  
任大臣ヨリ及通報候次第有之候處大鳥同委員会委員ヨリ在  
仏國松井大使ヲ經由シ本月十九日当省着電報末段ヲ以テ同  
會議議長ハ帝國政府モ英仏露伊ト同様ナル戰時禁制品目表  
ヲ採用セントヲ希望シ且總テノ「アルコール」ヲ絶対的  
禁制品ニ宣明スルコト致度旨提議シタル趣ニ付委員ハ  
同会次回會議ハ十二月六日ニ開カルヘキ答ニ付夫レ迄ニ右  
諸項ニ對シ帝國政府ノ意向承知シ度旨票申有之候ニ付委曲  
ハ別添同電報写ニ就キ御承知ノ上何分ノ儀至急御回示相成  
度此段及照会候也

註 別添松井大使來電第二〇三号ハ前掲(三一文書)ニ付省  
略ス

三一三 十二月五日 本野外務大臣ヨリ  
在仏國松井大使宛(電報)

## 戰時禁制品目表ノ統一問題ニ關シ回訓ノ件

第一六一号

一〇 国際常設經濟委員会一件 三二三 三四

供スルタメ到達港ノ領事ニ送付スルコトヲ勧告ス

三、各連合国政府ハ其ノ領土内ニ永置セル銀行及信用機關  
ニ対スル極内密ノ達シヲ以テ敵國ノ有価証券及利札ヲ外  
國ニ売り放スコトハ之レヲ禁ゼザルノミナラズ却テ各國  
家ノ利益ニ適応スルコトヲ知ラシメンコトヲ勧告ス

尙前電第一九一号ニ關シ第一ノ決議審議中議長ハ帝國政府  
モ英仏露伊ト同様ナル程度ト形式ノ戰時禁制品目表ヲ採用  
セラレントコトヲ希望シタリ第二ニ付テハ「アーリック、ア  
ルコール」ニ限ラズ各種ノ「アルコール」ヲモ絶対的戰時  
禁制品ト宣明スルコトヲ勧告スルモノナリ尚「エーリック」  
及「メーテリック、アルコール」ハ既ニ英仏露伊ノ禁制品中  
ニ掲ケアルヲ以テ前回ノ決議ニ右諸國カ同意ヲ表スルコト  
同意ナラバ總テノ「アルコール」ハ禁制品ト相成ルヘシ  
次回ハ十二月六日ニ開カルヘケレハ夫迄ニ右諸國ニ關シ帝  
國政府ノ御意向ヲ知ルコトヲ得ハ好都合ナリ

三一三 十一月二十四日 本野外務大臣ヨリ

加藤海軍大臣宛

連合國軍事外交經濟調整會議ノ決議ニ基ク常  
設經濟委員会ニ於テ戰時禁制品目ニ關シ決議

貴電第一〇三号末段ニ關シ大鳥委員ニ左ノ通伝ヘラレ度シ  
帝國政府ニ於テハ往電第一五〇号ノ通連合各國ノ戰時禁制  
品目表ヲ統一スルコトニ主義上異存ナキモ之カ實行ノ時機  
ニ付テハ目下詮議進行中ナル對敵通商禁止其ノ他對敵措置  
ヲ一層緊縮スル件決定ヲ待チテ同時ニ定ムルコトニ致度シ  
尚各種ノ「アルコール」ヲ絶対的戰時禁制品トスルコトモ  
連合各國ニ於テコレヲ為スニ於テハ賛成セラレ差支ナシ

三一四 十二月六日 本野外務大臣ヨリ  
在仏國松井大使宛(電報)

## 第十回常設經濟委員会ノ決議事項ニ關シ回訓

ノ件

第一六二号

貴電第一〇三号ニ關シ大鳥委員ニ左ノ通

一、決議第一ノ希望ハ将来本件ニ關スル法令制定ノ際ニ於  
テ成ルヘク之ヲ參酌スル筈

二、我取引ノ相手國ハ殆ンド全ク連合國カ又ハ物資ヲ敵國  
ニ取次グノ處ナキ中立國ニ限ルヲ以テ實際上決議第二ノ  
方法ヲ取ルノ必要ヲ認メザルモ尚慎重ナル考慮ヲ加フヘ  
シ

三一五 十二月十五日 在仏國松井大使（ヨリ）  
本野外務大臣宛（電報）

第十一回常設經濟委員会ノ決議ニ關シ報告ノ件

第二二三号 （十二月十六日接受）

大鳥委員ヨリ、十二月八日第十一回會議ニ於テ左ノ通一決議通過セリ

敵國ニ隣接セル国ニ仕向ケラルル物資ニシテ常時ト異ナル多額ノ輸出ヲ見ル際ニハ右物資ノ敵手ニ到達スルヲ防遏スルニ足ルヘキ適當ノ措置ヲ出来得ル限り敏速ニ執ルヘキコトノ利益ナルヘキコトヲ各連合国政府ニ通報ス

右ハ戰時禁制品代用品ノ敵国ニ入ルヲ防遏スルノ趣旨ナリ

尚同会書記部ハ英仏両国ニ於テ本年十月十三日附公第二四三号及十一月二十七日附公第二七八号報告ノ通り戰時禁制品目表ノ修正追加ヲ為シタルニ付第九回會議決議第一項ニ依リ各連合国ニ於テモ統一ノ目的ヲ以テ之ト同様ノ修正追加ヲ為サンコトヲ希望セリ

次回ハ本月二十二日ニ開カルヘク資金ノ敵ニ入ルヲ防遏スル為外國保險会社ニ對シ監督ヲ派スルノ件議題ニ上ルヘシ

ヘシ

(3) 各連合国外交官若シクハ領事官ハ中立国主要ノ港ニ於テ海上貿易ニ對シ禁止国海上監視官憲ハ敵国隣接ノ国ヨリ発送セラレ若シクハ右等ノ国ヘ仕向ケラルル商品ニシテ敵国保險会社ノ保險ヲ附シタルモノハ敵国商品若シクハ右等ノ国ヨリ発送サレ若シクハ右等ノ国ヘ仕向ケラルル商品ナリ

トノ嫌疑アルモノト思考スヘキ旨訓令ニ接シタル趣ヲ告示スルノ手配ヲ執ルヘシ

(4) 連合国海上監視官憲長及港司令官ニ對スル前項ノ措置ハ單ニ敵国海上保險会社ニ不信任ヲ來サシムルヲ目的トシ積荷ノ臨檢及差止ムヘキ商品ノ搜索ハ右商品ノ嫌疑ヲ受クヘキ性質ヲ決定スル附隨ノ手続ニ過キサルヲ以テ煩苛ニ流レズ其ノ適用ハ峻厳ニ涉ラザル様ニ記載シ前項ト同様ナル意味合ノ訓令ヲ發スヘシ

(5) 保險業務ニ関スル通信ニ對シ厳密ナル取締ヲナスヘキ旨郵便電信ノ監督機関ニ直ニ命令スルコト肝要ナリ

希望

委員会ハ（不明）及再保險会社間ニ一ノ協議ヲ遂ケ以テ之レニ参加スル保險会社ノ危険ノ平衡ヲ計リ統計ヲ（不明）

三一六 十二月二十九日 在仏國松井大使（ヨリ）  
本野外務大臣宛（電報）

第十二回常設經濟委員会ノ決議事項報告ノ件

第二四一号 （十二月三十一日接受）

大鳥ヨリ

十二月二十二日第十二回會議ニ於テ敵国保險会社ノ業務ヲ制限スルタメニ執ルヘキ措置ニ關シ左ノ決議五項及希望一項ヲ通過セリ

右ハ中立国保險会社ニ依リ資金ノ敵国ニ流出スルヲ防遏スルト共ニ海上保險会社ノ手ヨリ敵国ニ船舶ニ関スル諸事項漏泄シ敵ノ潛航艇ニ便宜ヲ与フルヲ予防スルコト其ノ主タル目的ナリ

(1) 各連合国ハ其ノ法制ノ主義ニ則リ或ハ法律ニ依リ或ハ命令ニ依リ成ルヘク速カニ其ノ領土内ニ於テナサレ及実行セラル保険及再保険特ニ海上保険及其ノ再保険ノ業務中外国会社ノ代理店ニ依リ執行セラルル業務ノ監視及取締ヲ設クルノ措置ヲ執ルヘキコト利益ナリ

(2) 右法規制定迄各連合国ハ其ノ權能内ニ在ル行政処分ヲ以テ将来成文ニ依リ確認セラルヘキ主要ノ条項ヲ一時適用ス